

核医学治療と医療被ばく -原発事故被ばくも含めて-

2011/6/23 (木) 17:30～18:30

大阪大学医学部 講義棟 3階 D 講堂

滋賀県立成人病センター研究所 画像研究部門

東 達也 先生

分子標的治療の一つとして、核医学治療が脚光を浴びています。

身体の外から放射線を当てる一般的な放射線治療（外照射）と違って、核医学治療は「身体の中からがん放射線を当てる」放射線治療として、放射性同位体（RI）で標識した薬を内服したり、静脈注射したりして、体内の標的臓器、腫瘍などに特異的に集積させ、その部位で放射線照射をするという、副作用の少ない理想的な治療法です。

現在、日本では、1) ストロンチウムを用いた転移性骨腫瘍に対する疼痛緩和療法、2) イットリウムを用いた低悪性度リンパ腫に対する放射免疫療法、3) 放射性ヨードを用いたバセドウ病・分化型甲状腺がんに対する放射性ヨード内用療法の3種類が、保険診療として認められています。

本講演では、これらの治療につき概要を示し、日本における現状・問題点を提示した上で、医療被ばくの問題、さらに原発での被ばく問題についてもお話していただきます。

略歴

平成 1 年 京都大学医学部卒業

平成 10 年 京都大学大学院医学博士取得

平成 10 年 米国ミシガン大学医学部 核医学科研究員

平成 12 年 京都大学医学部附属病院 放射線部助手

平成 14 年 京都大学医学部探索医療センター助手兼任

平成 19 年 滋賀県立成人病センター研究所 総括研究員

主 催: PET 分子イメージングセンター

連絡先: 大阪大学医学系研究科核医学講座(06-6879-3461)

hatazawa@tracer.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.tracer.med.osaka-u.ac.jp/index-jp.htm>

(大学院博士課程の論文提出時の研究セミナー出席単位を取得できます。)